



本郷台中だより

～学ぶ楽しさを知り、夢や希望を育む学校～

令和4年度第2号

令和4年5月12日

文京区立本郷台中学校

校長 江熊 秀昭

いのちと人権を考える 校長 江熊 秀昭

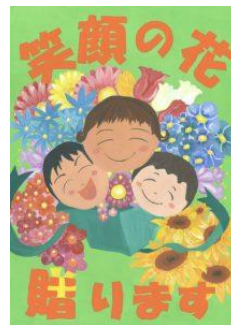
今月は「いのちと人権を考える月間」です。日常の生活の中で、生命の危険を感じることや人権を意識することは少ないのではないのでしょうか？

「いのち」の大切さはとてもわかりやすい。「いのち」は失われると二度と取り戻すことはできません。人は大なり小なり、悩みや心配事を抱えています。他人から見たら大したことではないようなことでも、本人には深刻な問題です。最悪の場合、「自死」を選ぶこともあり得ます。そのような人が身近にいたらどうしますか？全てを解決する力はないが、話を聞いただけなら、一緒にいる時間を作るだけなら…そうすることで、1%でも悩みを軽くすることができるかもしれません。

同じ学級、学年、学校にいる仲間(生徒も、教職員も、保護者も)が不幸になって、楽しいことは何もありません。大親友が一人もいなくても構いません。でも、誰もが「嫌な思い」をしないでいる関係性があれば、誰かに相談することができるはずです。

誰でも、何気ない言動で人を傷付けてしまうことがあります。そうした言動に気付いたときに謝罪や言動を改めることがとても大切です。私自身も多くの過ちを犯してきました。そこから学び、反省し、改めることができたと思います。もちろんまだまだ未熟なところは多々あります。だからこそ、皆さんと一緒に学ぶことで「夢や希望を育む学校」「幸福を感じられる学校」を作っていきたいのです。

「人権」と難しく考えるのではなく、「他人も自分も大切にする」「人が嫌がることをしない」といった当たり前のことを実践してください。そこから学び、成長した皆さんが、社会に巣立っていくことで世の中が少しずつ良い方向に向かっていくことを期待しています。そして、現在のウクライナ国民やロシア軍兵士、日本や世界各地で生命の危険にさらされている人々がいなくなる世の中を作り上げると信じています。



素敵な話

昼休みに校庭で1年生の男子が友人と以下のような会話をしていました。

A「今朝、遅刻しちゃった」

B「どうしたの？」

A「倒れている人がいたから、立ち上がるのを助けた。大丈夫と言って歩き始めたら、また倒れた。心配だからその人がちゃんと行けるか、付いて行ったんだ」

その話を担任に伝えたか、聞いたところ、「遅刻の理由にならないと思ったから言ってない」という返事でした。「人助けをして、遅刻したのだから理由になるよ。担任の先生に伝えられる？」と聞くと、「言える」とのことでした。放課後、担任からも報告がありました。

地域や学校で気になったときに他人を支えられる、一声かけられる、そのような行動ができる生徒がいることをとても頼もしく、とてもうれしく思いました。

離任式

4月28日に齊藤正富前校長（音羽中校長）と村上ゆかり主任教諭(墨田区教育委員会)をお迎えし、離任式を行いました。

齊藤先生には運動会や授業で失敗談なのエピソードを代表生徒が語り、「人をうらやむ前に自分を磨く、壁にぶつかっても諦めずに乗り越える」といった励ましの言葉をいただきました。村上先生には授業のエピソードや誕生日のお祝いを代表生徒が語り、「うったち半分(始めてしまえば、物事の半分は終わった)」という故郷鹿児島格言をいただきました。

両先生の言葉を胸に生徒は日々の生活を過ごすことと思います。

5月行事予定

1日	日	開校記念日
13日	金	小学生体験入学(本郷小)
14日	土	土曜授業公開・部活動保護者会・PTA総会
16日	月	生徒会朝礼
18日	水	研修会・学習支援教室
19日	木	小学生体験入学(湯島小)
20日	金	2年防災宿泊
21日	土	2年防災宿泊(～8時)
23日	月	学年朝礼
26日	水	学習支援教室
27日	金	生徒総会
30日	月	全校朝礼・教育実習始